

被爆 75 周年原水禁世界大会 現地実行委員会挨拶

被爆 75 周年原水禁世界大会広島大会、オンライン集会に参加の皆さん、大変ご苦労様です。

現地広島の実行委員会、広島県原水禁で代表委員をしております佐古です。よろしくお願い致します。

まずは、7月豪雨災害において被災されたすべての皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

そして、新型コロナウイルスの感染拡大と闘っているすべての皆様にも心よりの感謝と敬意を表します。

さて、今年是被爆 75 周年です。75 年前の 8 月 6 日午前 8 時 15 分、この広島は人類史上初めて、原子爆弾の投下によって瞬時にして多くの人命が奪われました。熱線と放射能、爆風による家屋の倒壊などによって、市内一円が焦土と化し、年末までに 15 万人が死亡しました。かろうじて生き残った被爆者とその家族も、75 年間放射能による後遺障害に苦しみ、また、あらゆるいわれもない差別にも耐えながら苦しい生活を余儀なくされました。

広島そして長崎に対する原爆投下という非人道的な兵器の使用や核攻撃は、そもそも戦争という狂気の行為がもたらしたものです。私たちは戦争のない平和な世界を希求し「核と人類は共存できない」という核絶対否定の立場を貫いてきました。原水禁大会は核をめぐる状況がいかに困難な状況にあらうとも、核を廃絶するために全世界で活動を展開する同志の皆さんの思いを一つにするためにも重要な大会であると思っています。

そして、大会には毎年多くの若者や子供たちが参加しています。広島そして長崎の被爆地に実際に足を運んで被爆の実相を目のあたりにし、被爆者の体験談に耳を傾けること、内外の反核運動の経験に学ぶことは、被爆体験の継承や学習という点からも非常に貴重な経験となります。

しかし、大変残念な事態ですが、今年については新型コロナウイルスの感染拡大という非常事態のため、現地で集会を開催することができません。オンライン集会という形式になりますが、少

しでも多くのことが学び合えて、今後の活動の参考にしていただければと思います。

結びになりますが、「核と人類は共存できない」という核絶対否定の理論を導いた、原水禁の初代の代表委員森瀧市郎先生は、私たちに多くの示唆に富んだ言葉を残されています。とりわけ反核運動を底辺から支えてくれる言葉があります。それは、「精神的原子の連鎖反応が 物質的原子の連鎖反応に かなねばならぬ」という言葉です。物質の原子が核分裂によってもたらす大量のエネルギー、つまり核に対して、私たちは精神のつながりを強固にして運動を拡大させ、核の廃絶を成し遂げなければならないということだと理解しています。私たちは住む国や場所、年齢や性がそれぞれ違っていても、核も戦争もない平和な 21 世紀を求める思いは同じです。核廃絶への道のりはまだまだ険しいですが、それぞれの国や地域で頑張り合うことをお願いして、被爆地広島からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。